

「交流・生活・環境」部門幹事会（2月25日） 主要意見要旨

（湾内海上ネットワーク）

- ・ 御前崎港と静岡空港、背後道路のポテンシャルの活用と観光需要の喚起を図れば、御前崎～下田は魅力的な海上ルートになり得る。
- ・ 清水～田子の浦～沼津の海上ネットワークができれば、観光客を流すことができ、観光のインパクトとなる。
- ・ 今後は、需要の見極め、観光メニューづくりの取組を行い、フェリー会社へ提示していく必要がある。（試験的運航から将来的には定期化を目指す）

（観光ネットワーク）

- ・ 中部横断自動車道の開通効果を活用して、日本海と駿河湾・伊豆の観光コンテンツをつなぐ観光プロジェクトができれば、清水港はその中核となり得る。

（プレジャーボートの湾内回遊性）

- ・ 母港に戻るだけのクルージングではなく、駿河湾内各地を転々とクルージングできるようなネットワークの仕組みがあると良い。
- ・ クルージング需要とニーズ、施設のキャパシティを確認する必要がある。

（にぎわい空間）

- ・ 地元市町と連携したにぎわいづくりが必要不可欠。（地元旅館の参画等）
- ・ 清水港では、日の出と江尻をつなぎ港内を周遊させる仕掛けが必要。（自転車道路の活用等）

（産業観光）

- ・ コンテナや自動車等の荷役シーンは日常見ることができない価値のあるもの。“産業を支える港”を売りに、港の資源を活かした独自の産業観光を展開できないか。（産業見学を観光メニューとして人を呼び込む）
- ・ 田子の浦港では、大型貨物船の操船など港の資源を活用した“産業観光”と水産物の“食”とをつなげる視点が大事。
- ・ 他にはない新しい取組（再生可能エネルギー、災害がれきの受入等）は視察の対象にもなり人を呼び込む目玉となり、御前崎港の価値が高まる。

（海域活用エリア）

- ・ 建設発生土砂や災害がれきの受入先をゾーニング表示しておくことは大事。